

2013.March



今号の内容
性格について
甲中校長が語る
人なまごまご

こんにちは
 附属です
最前線リポート

～退職にあたって～
 今春、大学を後にされる先生方からの言葉
ボランティア活動での活動報告
 東日本大震災被災地
 さらに充実した石彫の作業場よ！
 大学院生活を振り返って **ほか**

学園だより

GAKUENDAYORI

性格について一人さまざまー 学長 田中 雄三	1	
学園を巣立つ前に	2	
あなたにとって、大学生活とは・・・？	学校教育学部	学校教育コース
学園を巣立つにあたってー4年間の成果ー	学校教育学部	理科教育コース
2年を振り返って	学校教育研究科	隅田 薫
充実した日々感謝	学校教育研究科	田中 行
2年間の思い出	学校教育研究科	米田美沙紀
院生活を振り返って	学校教育研究科	荻田絵美里
環境は人を育てる	学校教育研究科	松谷 健二
大学院生活を終えて	学校教育研究科	小倉 有紗
大学院生活を振り返ってーさらば充実した石彫の作業場よ！ー	学校教育研究科	野方 健司
退職にあたって	8	
定年退職を迎えるに当たって想うこと	賀川 昌明	
大学を支えるものー変化のなかの一貫性ー	兼松 儀郎	
苦しませ喜ばせてくれた大学院生	木原 克司	
恩師の課題	草下 實	
在りし日の思い出	前田 英雄	
退職のご挨拶	八幡ゆかり	
「大学」とは何かー退職にあたって想うことー	米澤 義彦	
国際交流	12	
留学体験記ーアメリカ イーストカロライナ大学留学報告ー	天野 真実	
交流学生による大学紹介ー中国 青島大学ー	楊 帆, 龍 霖	
オーストラリアでの10ヶ月を通じて	加藤 将	
教育に恩返しー日本産業技術教育学会優秀研究発表賞 受賞感想ー	鎮 革	
課外活動～サークル紹介～	16	
弓道部	弓道部の奇妙な冒険	庄野 雄介
合唱団 ‘tadpole’	合唱団 Tadpole	徳井 貴彬
茶道同好会「一期一会」	茶道の世界へようこそ！	天川 康博
理科サークル	おいでよ 理科サークル	清原 光央
こんにちは附属です	18	
附属幼稚園での保育者修行	附属幼稚園	安原 陽香
体力アップ	附属小学校	月本 直樹
がんばっています！吹奏楽部	附属中学校	武田有加里
わくわくした第1回学校祭	附属特別支援学校	加藤 浩
図書館だより	20	
健康手帳	21	
高齢出産と少子化の問題	心身健康センター	廣瀬 政雄
ボランティア活動	22	
東日本大震災・被災地支援活動参加報告	水島 誠治	
学生会・院生会だより	23	
一年を振り返って。	学生会会長	矢出佳菜絵
1年を終えて。	院生会会長	村井 庸佑
課外活動News / ALBUM	24	
クリスマスイルミネーション	学生会	山野 実保
大学事務職員の仕事	25	
なるきょう通信ー大学からのお知らせー	26	
① 運転マナーについて		
② マルチ商法について		
学生表彰について・行事予定	28	
編集後記		

性格について 一人さまざま

◆ 学長 田中雄三



若い頃に読んだ小説の中の言葉だったように記憶しているが、次のような文章が心に残っている。〈人さまざまなればこそ、人さまざまの価値があるのだ〉。現代でいうところの、生物多様性の意義

や価値を文学の中で簡明に言い当てているといえる。青年期は、自分の性格についてあれこれ悩むが、これはごく普通のことであり、一般的な現象である。私も自分の性格については、あれこれ悩むことがあったが、この言葉に出会ってから急に気が楽になり、自分は自分、人は人という風を受け入れることができるようになった。精神医学を志したとき、私はあまり迷わずに学位論文のテーマを「精神疾患と病前性格」とした。

性格の研究は、古代ギリシャのテオフラストスの「人さまざま」を嚆矢とする。我が国でも古来「十人十色」とか「無くて七癖」などの諺があるように、人間の性格はいろいろである。いくつかの性質を集めて一つの性格類型とするが、類型学の発達によって性格学が発達したとあってよい。一般的によく知られている類型として、ユング、C.G. (1875-1961) の内向型と外向型がある。精神医学において、最初に性格学が注目を浴びたのはイタリアのロンブローゾ、C. (1835-1902) の研究である。彼は、犯罪と性格および身体特徴との関連を研究し、「生来性犯罪者説」を唱えた。その後、シュナイダー、K. (1887-1967) が「精神病質人格」を著した。シュナイダーは、自らの人格が「その異常性ゆえに自己自身を悩ますか社会を悩ます」ものを精神病質人格と規定し、10 類型に分類している。また、クレッチュマー、E. (1888-1964) は、体格と性格との関係を研究した。

私が精神科臨床の場において最もよく使用した性格類型は、次の7 類型である（鳥取大学式性格

診断表による）。

- 1) 統合失調気質：感じやすい（あるいは動じない）、疑いやすい（あるいは無関心）、無口、きまじめ、交際が狭い、人好きがよくない、気むずかしい、空想的
- 2) 循環性格：朗らか（あるいは沈みがち）、楽天的（あるいは悲観的）、あっさりしている（あるいはよくよくよする）、きびきびしている、交際が広い、親しみやすい、世話好き、实际的
- 3) 執着性格：几帳面、仕事熱心、凝り性、粘り強い、責任感が強い、いい加減にごまかせない、堅い、妥協的でない
- 4) 自己不全性格：遠慮深い、自信がない、苦勞性、いつも自分のことを気にする、劣等感、努力的、臆病、孤立的だが人嫌いではない
- 5) 粘着性格：言語・動作が鈍い、しつこい、話がくどい、頑固、かんしゃくもち、綿密、整頓好き、形式張る
- 6) 神経過敏性格：神経過敏、疲れやすい、騒音を気にする、異常に潔癖、眠りが浅い、よく医者にかかる、身体の調子が狂いやすい、軽率
- 7) 自己顕示性格：気分が変わりやすい、派手好み、人目に立つことが好き、大げさ、好き嫌いが激しい、嫉妬深い、わがまま、負けずきらい

さて、皆さんはどの性格類型に当てはまるであろうか。チェックしてみるのも一興である。ちなみに、私は自己不全性格が強いようである。まさしく人さまざまである。

〈参考文献：森谷寛之・田中雄三共編；生徒指導と心の教育，培風館，2000年〉

学園を巣立つ前に

あなたにとって、大学生活とは…？

◆ 学校教育学部 学校教育コース



いろんなことができて、
たくさんの人に出会えた時間

キティちゃん大好き・
みさき

大学生活は、楽しくするの
も無駄にするの自分次第

陸上競技をこよなく愛する・
石原

人目なんて気にしない♪
スーパー、カフェどこでも
ジャージだメエ〜

アルプスの子ヤギ・ゆき

何事もどうにかできると
実感できた大学生活

4畳半で4年間過ごした
4号棟住人・とし

一生の友だちと出会えた
4年間★”

虫全滅計画を立てている・
なつこ

「4年間はあるという間！血吐くくらいの勢いで遊んでおけ！」卒業していく先輩方に毎年言われていた言葉です。1年生の時はこの言葉の意味をよく分かっていませんでした。4年生になり卒業を控えた今、まさに後輩達に送りたい言葉です。

鳴門教育大学に入学してきた当初、人気の無さ、渡船の存在、寮の設備等々に衝撃を受け、正直大学生活が不安で仕方ありませんでした。でもそんな不安を吹き飛ばす様々な出会いが、この大学には待ち構えていました。こんな小さなスペースでは語り尽くせない本当に素敵な時間をこの大学で過ごすことができました。色々な人に影響を受けながら、自分自身を見つめ直すことができる時間だと思います。まずは、人と関わってみること、これが大切だと学びました。

最後に、私に関わって下さった全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました！

後輩達へ、どんな大学生活にしますか？

卒業生へ、どんな大学生活でしたか？

感謝×2の四年間
三度の飯より…やっぱり飯♥

食べるの大好き！・
かつちゃん

時間の使い方は人それぞれ☆
自分次第で何でもできる！それが大学生！！

ザ☆テクトー・あおい

いっぱい泣いて、いっぱい笑った
忘れられない4年間♪

毎日1つは猫グッズ☆
わこ

大切な人たちに囲まれて
過ごせた4年間

3度の飯より昼寝が好きな・
あや

学園を巣立つ前に

学園を巣立つにあたって - 4年間の成果 -

◆ 学校教育学部 理科教育コース

4年間過ごしてきた学校から旅立つのを前にして、大学生活で得た様々なことが頭をよぎります。他の大学と比べれば、田舎に建つ、小規模な学校ですが、中身の濃い体験をさせていただきました。今、思い返せば、入学当初はまだまだ学生気分が残っていました。私自身、遠い実家から通う不便な生活をしていました。寮生に比べれば生活の質は悪くないにせよ、彼らと過ごす時間はとても少なかったです。ですが、大学での教育実習を中心とするカリキュラム、ボランティア、部活動、学校行事などを通して、教員を志す友とともに、時に泣き、時に笑い、時に怒り…いつしか、私たちは「大人の風格」を備えるまでになりました。

卒業する学生は教職関係の職業に就き、大学院に進学し、一般企業に就職し、いずれも大学から離れていく方がほとんどです。いざ、これからのことを考えると、新天地で心新たにやろうと思うことも、今まで支えあった仲間がいないことで不安に感じることもあることでしょう。ですが、それぞれの進路で、生徒に教える立場に、新たな環境で自分の専門分野で研究する立場に、顧客に対応する立場になり、社会人として全うすべき使命を持つようになります。私たちはこれまでの経験を糧に、その名に恥じぬ職責を全うしなければならない立場であることを自覚し、いつか、同窓会などで彼らと再び自分たちの経験を語り合う日が来るのを心待ちにしています。

これまで、大学生活を支えてくださったすべての方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

(小学校) 安岐美佐子, 小笠航, 齊官健人, 矢野将啓, 米田美貴

(中学校) 芦原慎平, 安藤恵理, 十川彩香, 濱田剛史, 板東康行, 平見英樹

文責：平見



実験圃場にて (右端が筆者)

多目的広場にて



学園を巣立つ前に

2年間を振り返って

大学院を修了するにあたり、終始温かく支えてくださった先生方、教職大学院4期生のみなさんに感謝の意を申し上げます。

振り返ると、この2年間は、あっという間に過ぎ去りました。通学前に橋の上から見る内ノ海、海外を思わせる木立やヤシの木、鳥の囀り、そしてベンチで寝そべっている猫たち、穏やかで美しい環境の中で学ぶ機会を得られたことはこの上ない喜びでした。1年次は共通科目で視野を広げ、「なぜ信頼することが大切なのか」「子供の内面を理解するとは」を自分なりのテーマとして捉え考えました。また、カリキュラムの一つである学校アセスメントでは、勤務校の実情を客観的に把握し、これまでとは全く違った視点から学校を俯瞰

◆ 学校教育研究科 隅田 薫

し、自分がこれまでどれだけの人に支えられてきたかを知ることができました。2年次では実習を通して、「今、ここにかかわる」ことを念頭におき「どうかかわるのか」ということについて探りました。そのことは、大学院での学びと生徒とのかかわりにおいて上手くリンクしていたと思います。実習を通して学んだことは私にとって意義深く、大きな財産となりました。これら貴重な経験ができたのも、実習校の先生方や大学の先生方、そして苦楽を共にした仲間のおかげであると思います。この2年間の経験を糧に現場復帰し、生徒や仲間と共に寄り添い続ける教員でありたいと思います。

〈高度学校教育実践専攻 学校臨床実践コース〉

充実した日々感謝



今思えば、鳴門での2年間は本当にあっという間だった。入学するときには、多少の不安もあったが、先生方の温かい

ご指導や教職大学院で共に学んだ4期生のみなさん、実習校の先生方のおかげで、充実した日々を過ごすことができた。そして、「学ぶことは楽しいことだ」と心から言える自分になったように思う。

教職大学院では、1年次に、現在の教育課題や学校課題分析の手法、課題解決へ向けての方略、教職員が協働することの大切さ、危機管理やコンプライアンスについて学ぶことができた。専門的な理論や知識をもたれた先生方や前向きに課題に向き合う4期生のみなさんのおかげで、本当に有意義な学びができた。

その学びを実習にも生かすことができたように思う。実習校の先生方は、本当に協力的だった。

◆ 学校教育研究科 田中 行

学校課題に真摯に向き合い、熱心に子どもたちの指導にあたられていたようにも思う。そして、そういった姿を見せていただくことで、私は今までの教育活動はたくさんの方々のおかげによって成り立っていたのだと思えるようになった。

また、実習校では、4月初めに課題解決に向けてのキャッチフレーズ「かかとピタッ！指先ピン！ひとみキラリやまじっ子！」をつくった。その後、全校朝会での紹介や教室掲示などで、めざす子どもの姿として浸透を図っていった。そのような中で、秋にあった運動会では、キャッチフレーズ入りのTシャツを全教職員が着用することになった。私も思いがけないことだったので本当にうれしかった。実習校の教職員が思いを一つにして指導できるようになったのも、ここでの学びが背景にあるように思う。

他にもたくさんの成果があったが、まだまだ課題が残されているのも事実である。課題解決のためにも、まず私自身が「学ぶことは楽しいことだ」という今の気持ちを忘れず、前に進んでいきたい。

〈高度学校教育実践専攻 授業実践・カリキュラム開発コース〉

学園を巣立つ前に

2年間の思い出

◆ 学校教育研究科 米田 美沙紀



私は学部から本大学へ在籍していたので、6年間この徳島鳴門の地で過ごしたことになります。卒業にあたり、この地を離れることを大変寂しく感じています。実家は県外なのですが、今となっては徳島の方が住みなれた自分の故郷のような気持ちがしています。ここで多くの人に出会い、たくさんのことを学ばせていただきました。どれも忘れられない思い出ですが、今回は大学院2年間、共に学んできた仲間との思い出を振り返らせていただきたいと思います。

大学院は、学部の頃に比べ実習も多く、またそれに当たったレポート課題等も多く、毎日あわただしく過ごしてきました。しかし、そのおかげで2年間はあっという間でしたが、教育について多くのことを学ぶことができた充実した2年間となりました。飽き症の私が、途中で挫折せずに、勉学に一生懸命取り組むことができたのは、楽しい時も苦しい時も共に頑張ってきた同期の仲間が存在があったからだと思います。短い時間ではありましたが、一緒に過ごした仲間たちにとっても感謝しています。

最後になりますが、この6年間私に多くのことを教えてくださった方々、一緒に楽しい時間を過ごしてくれた方々に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。鳴門教育大学で過ごした6年間は忘れません。

〈高度学校教育実践専攻 教育養成特別コース〉

学園を巣立つ前に

院生活を振り返って

鳴門教育大学での2年間を振り返り、あっという間でしたが、とても濃い月日を過ごせたと思っています。鳴門での生活が始まったのは海風が強く寒い日で、不安と期待が入り混じった心持ちだったことを覚えています。のどかな土地に慣れ、友人たちと親しくなるうちに、学部時代とは違い、夢を持ち自分の専攻分野に向き合う真剣な人が多いことに気づきました。不安に流されそうな時もありましたが、院に進学した目的のある人々に揉まれることで、自分もやらなくては…と奮い立たせることができました。

勉学に関しては、先生方から心理士になるために座学だけではなく、実習などを通して多くのことを学ばせてもらいました。また、実際に心理相談を受け持つことで、困っている人々に対してどう援助できるのかを考えると同時に、自分自身のことにも顧みる機会となりました。関わってくだ

◆ 学校教育研究科 荻田 絵美里

さった沢山の人ののおかげで、貴重な院生活を全うすることができました。その感謝の気持ちを胸に、鳴門教育大学に来て学んだこと、経験したことを糧として、これから現場で活かしていこうと思います。

〈人間教育専攻 臨床心理士養成コース〉



淡路島へコース旅行にて

環境は人を育てる

「環境は人を育てる」これは母が私によく言っていた言葉です。この鳴門教育大学で過ごした2年間の中で私はこの言葉の意味を肌で感じるようになりました。

自然があふれ、時間がゆったりと流れるこの鳴門の地は勉学にぴったりの環境だと思います。しかし、その自然環境以上に私を育ててくれたのは、先生方や同級生をはじめとした鳴門で出会った方々でした。先生方からは温かいご指導の中で深く考えるきっかけを頂いたり、ときに心が救われるようなお言葉をかけていただきました。

同級生とはともに2年間で過ごす中で、支え合いながら様々なことに取り組みました。修士論文、相談事例担当、実習などたくさんのことに取り組みましたが、中でもみんなで一丸となって勝利を目指したソフトボール大会はこの2年間で一番の思い出です。

◆ 学校教育研究科 松谷 健二

他にもたくさんの方々に支えて頂き、この2年間で私は鳴門という環境に育ててもらいました。この鳴門での2年間で得たものや感謝を胸に、新しい環境でも成長していきたいと思っています。

〈人間教育専攻 臨床心理士養成コース〉



院生ソフトボール大会にて

学園を巣立つ前に

大学院生活を終えて

◆ 学校教育研究科 小倉有紗

鳴門での2年間の大学院生活では、不安でいっぱいだった入学前からは考えられない程のたくさんの思い出ができました。その中でも、社会系コースの仲間の存在は欠かせないものとなりました。勉強においては共に励まし合い、意識を高め合うことができました。それぞれの誕生日の月にはお祝い飲み会を開き、予定を合わせてはボーリングに出掛け、遊ぶ時にはしっかりと遊ぶことができました。また、みんなで一丸となって臨んだソフトバレー大会の練習も忘れられません。

さらに外国史ゼミにおいて、学部生・院生の関係なくそれぞれの研究について議論できたことは、それまでのゼミとは全く違い刺激を受けることができました。先生には優しく厳しく指導して頂き、研究室ではコーヒーを飲みながら楽しい話も聞く

ことができました。

大学院生活で出会った方々には、大変お世話になりました。この2年間の経験を糧とし、これからも成長していきたいと思います。本当にありがとうございました。

〈教科・領域教育専攻 社会系コース〉



大学院生活を振り返って -さらば充実した石彫の作業場よ！-

◆ 学校教育研究科 野方健司

この2年間は楽しいこと以外にも苦悩や挫折も味わいましたが、非常に有意義でした。私の専攻である石彫（彫刻）は美術の中でも人数が少ない分野なので、入学当初から一人で作品制作をしてきました。さびしいとよく思っていました。いつか自分のためになると考えるようになったことから、つらかった時もなんとか乗り越えることができました。一人だったからこそ他専攻の研究にも興味を持てたし、人の親切さや温かさを深く感じることができました。ここでは美術の専門性だけでなくたくましく生きる孤独力を高めることができ、厳しい環境でも適応できるよう成長できたと思っています。友達と仲良く過ごすことも大事ですが、あえて人と距離を置くことも人間性を深める上で大切だと感じました。今後は学んだ専門

性を美術教育に生かしていけるよう頑張る所存です。最後に、お世話になった方々に感謝します。特に美術コースの先生方には本当にお世話になりました。

〈教科・領域教育専攻 芸術系コース（美術）〉





退職にあたって

定年退職を迎えるに当たって想うこと

◆ 芸術・健康系教育部 生活・健康系コース（保健体育）教授 賀川昌明

私が鳴門教育大学での勤務を始めたのは、昭和61年の4月からである。徳島生まれ徳島育ちの私にとって、鳴門の地は比較的馴染みのある地域であった。しかし、正直なところ、こんな辺鄙な、しかも塩田しかないと思われていたところに大学ができるとは夢にも思わなかった。それでも、鳴門教育大学への転任が決まった昭和58年あたりには周辺に新しい住宅が建ち、大学構内も人文棟や事務棟を皮切りに建設ラッシュが始まった。そして、私も徳島大学に勤めながら、本学の生活・健康系（保健体育）教育講座がスタートするための準備要員として協力することになった。

その主な仕事は、保健体育関係のカリキュラム

編成案と健康棟および学内体育施設案の作成であった。様々な苦労はあったが、無事に保健体育教育コースがスタートし、新入生が入学したときは、さすがに心が躍った。それから約30年。大学改革や免許法の改定等でカリキュラムも変わり、健康棟や体育施設を含む大学の様子や学生気質も少しずつ変化している。しかし、本学が「教員のための大学」であるという理念には変わりがない。これから先も「教育の一番札所」である本学から沢山の先達が巣立つことを期待したい。

大学を支えるもの —変化のなかの一貫性—

◆ 基礎・臨床系教育部 学校・学級経営コース 教授 兼松儀郎

鳴門教育大学では10年間お世話になりました。学部や大学院でのゼミ指導において、思う存分議論できたことは本当に幸せであったと思います。また、入試課の皆様と力を合わせて大学入試センター試験の実施に取り組んだことも、懐かしく思い出されます。

これまで高校教育、教育行政、さらに大学教育へと転じてきた私にとっては、本学キャンパスでの四季を通じて着実で一貫した自然の営みは、きわめて印象深く思います。トベラが、白い花を咲かせ、実をつけ、やがて赤い種をのぞかせるという規則正しい歩みは、第6駐車場から人文棟に至る小道を日々楽しいものにしてくれました。

現在、高等教育はめまぐるしく変化しています。本学も国立大学法人となり、また、新たに教職大学院が創設されました。これまでの職業生活を振り返ってみると、いつの時代も教育改革が叫ばれてきたように思います。このことは、教育が社会変化への対応を迫られているという現実とともに、人間や教育をめぐる議論の特質—結論を容易には得ることができない—に由来すると考えられます。

絶えざる変化のなかで、今後の教育・研究について自由闊達に議論し、本学として一貫して誇りうるものをさらに発展されますよう心からお祈り申し上げます。



苦しませ喜ばせてくれた大学院生

◆ 人文・社会系教育部 社会系コース 教授 木原 克 司

もう10年近く前になるでしょうか記憶も薄れていますが、私の大学生活の中で最も印象に残る院生がいました。彼は某県の現職の高校教員でした。入学後最初のゼミで修士論文のテーマについて尋ねたところテーマがまだ定まっていませんということだったので、私の方から郷里の最大の沖積平野をフィールドとして古代の条里と交通路を考察してみないかという提案をしました。するとしばらくして、本人からは是非ともやってみたいという返事がありました。しかし、それからが大変でした。というのも経済学部出身の院生に歴史地理学の基礎から勉強させ、しかも条里と交通路の復原のための最先端の方法論を毎日夜遅くまで指

導するはめになったからです。おかげで修論提出直後に私の方が胃潰瘍で吐血し2週間ほど入院することになりました。しかし、1年後に彼の修論が地元新聞厚生文化事業団主催の論文審査会で最優秀賞の次点となり、数年後に県埋蔵文化財センターの発掘調査で彼が想定した古代道路跡が検出されことを新聞紙上で知り飛び上がって喜びました。血を吐いてまで指導した成果があったと今は懐かしく思っています。



恩師の課題

◆ 芸術・健康系教育部 芸術系コース（音楽）教授 草 下 實

私の恩師故柴田睦陸先生への就職報告の折、師から教育の道を歩むものの心構えとして“私を捨て公に生きよ”と“一隅を照らす人たれ”の二つの戒めの言葉を頂いた。昭和51年の春であったと思う。当時の私には、妙にかび臭い言葉に映りましたが、どこことなく重い課題が与えられたような記憶があります。以来、37年間大学教員として黙々と歩んで参りましたが、様々な壁にあたる度に師の言葉が行く道の選択を問い掛け、その都度、公は一隅を照らすとはと自問し、正しいと思う道を悩み続けながら歩いて来たように思います。

ところが、師の私へ戒めの言葉と師の私への“想い”の真意が何であったのか未だに納得する答えが出ていない。恩師とは有り難いものである。弟子が退職年齢になっても課題を与えるのであるから、師匠は苦勞人であったが、最高の声楽家であり、教育者であった。その師を越えることなどできるのだろうか。一隅を照らす人間になれるのだろうか、これらの言葉はもっと広く、深くみつめる必要がありそうである。もうしばらく悩んでみようと思う。このところ、私は教え子の皆さんに師の戒めの継承と“知識は人を説得することができる。叡知は人を納得させることができる”と課題を与えている。感謝



退職にあたって

在りし日の思い出

◆ 自然・生活系教育部 生活・健康系コース（家庭）教授 前田 英雄

郷里にある鳴門教育大学で26年間お世話になった。着任後、後にも先にも一度だけ学長に直訴した。「放射性同位元素が扱える管理施設が作れないか」と。当時、前任の熊本大学から引き継いできた研究が放射性同位元素を使わないとできないからであった。しかし、学長から「大学近辺にはワカメの養殖場があり、地域住民が廃液処理で反対するだろうからとても無理だ」とのことだった。そこで大塚製薬の社長に頼んで一時的に川内の研究施設での使用許可をもらい、その後、非常勤講師をしていた徳島大学の蔵本キャンパスで実験を行い、何とか目的どおりの遺伝子解析ができたのを思い出す。また、第5部の部主事をしてい

た当時、大学全体の定員削減問題があり、3講座で構成している第5部から4名の定員削減を学長から要請され悩んだのも苦い思い出。時を同じくして国立大学の法人化準備のため連日会議で、その度に分厚い資料を渡された。以来、自分の研究室の整理整頓ができなくなり、今に至っている。長く勤めてきた職場を去るのは寂しいが、解放される気持ちもある。教職員の支えと学生達の熱い眼差しがあったからこそと、心から感謝したい。鳴門教育大学の今後、益々の発展を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。

退職のご挨拶

◆ 基礎・臨床系教育部 特別支援教育専攻 教授 八幡 ゆかり

私が本学に赴任したのは平成8年で、当時、「教育実践学の構築」が課題になっておりました。そこで、学校現場にできるだけ多く出向きました。その結果、導き出したのは、「理論と実践の統一を目指すこと」でした。このことを教育活動や研究活動の軸に据えて取り組み、その成果を学部や大学院の授業、そして、学校現場に還元できるように努めてまいりました。

さて、私の専門分野である特別支援教育に想いを馳せますと、長年、親しんできた「障害児教育」から特別支援教育へと変わったことが最も印象深い出来事でした。このことで、通常の学級にいる発達障害児の教育に目が向けられたことは喜ばし

いことです。ですが、一方では、障害の重い子どもの教育について関心が薄れてきているように思われます。

障害のある子もいない子も含めた、「一人一人の子どもの教育的ニーズ」に応えるために、大学教員の皆様や学生の方々が教育に取り組んでくださることを願っております。

最後になりましたが、これまでの皆様のご厚情とご支援に感謝し、また、鳴門教育大学のますますのご発展を祈念して、退職のご挨拶とさせていただきます。



退職にあたって

「大学」とは何か —退職にあたって思うこと—

◆ 教科・領域教育専攻 自然系コース（理科） 教授 米澤義彦

みなさんは「何のために鳴門教育大学に入学したのですか？」と問われたら、なんと答えますか？

多くの人は、「わかりきったことを聞くな。教員免許を取得するためだ。」と一笑に付すかも知れません。確かに、「教員免許」を取得するためには、4年制の大学か短大に在籍して、所定の単位を修得する必要があります。しかし、第二次世界大戦以前の日本においては、教員免許を取得するために大学で学ぶ必要はありませんでした。「師範学校」と呼ばれた教員養成のための「専門学校」で学べばよかったです。ではなぜ戦後は、教員免許を取得するために「大学」で学ばなければいけなくなったのでしょうか？

私は、「教師」が教育の単なる「実践家」ではなく、幅広い知識や考え方、言い換えれば「教養（liberal arts）」を身につけた職業人でなくてはならないという、当時の高等教育改革に携わった人々の強い思いがあったのではないかと推察しています。現在の日本の大学教育では、この liberal

arts という語はほぼ「死語」となっていますが、本来、大学では、どの学部にも所属していようとも、人文科学や自然科学、社会科学を包括する幅広い学問を学ぶことが要求されていました（今、この思想が残っているのは、東京大学教養学部、国際基督教大学教養学部など数えるくらいでしょうか）。

みなさんは、鳴門教育大学に4年間在籍して所定の単位を修得すれば、「教員免許」を取得することができます。しかし、それで「大学」で学んだことになるのでしょうか？「大学」は単なる「実践家」を養成する「専門学校」ではありません。

「大学」で学ぶことの意味を、今一度自分自身に問いかけるとともに、J. S. ミルがスコットランドのセント・アンドルーズ大学の名誉学長に就任したとき（1867年）の演説を収録した『大学教育について』（竹内一誠訳、岩波文庫）を是非読んでいただきたいと念じています。





留学体験記 -アメリカ イーストカロライナ大学留学報告-

◆ 学校教育研究科 天野真実

私は2011年8月から2012年5月まで、アメリカの East Carolina University に短期留学しました。本校は North Carolina 州の Greenville 市という、いわゆる大学町にあります。寮は基本2人部屋で、前期はスウェーデン人、後期はアメリカ人のルームメイトと過ごしました。寮費には光熱費関係は全て含まれています。食事は大きな食堂が二つ（取り放題、食べ放題!）、加えて様々な場所に大手のチェーン店（Starbucks Coffee や SUBWAY など）が入っています。基本的には事前に meal plan というものを購入することになります。これで、食堂での食事代が格安で1学期間保障されます。加えて、pirate bucks というプリペイドもついており、これはキャンパス内のコンビニやチェーン店でつかえます。このカードのおかげで、学内では現金を使うことはありませんでした。大きな買い物は大学から無料で transit bus が出ており、それを利用して郊外へ行って行っていました。運動施設も充実しており、学生は無料で使用ができます。さまざまなエクササイズのクラスも開講されており、学生は格安で利用できます。私は、前期は Zumba、後期は Bella Ballet のクラスを受講してみました。

授業は、学部コースは早い授業が朝8時から夕方まで、授業時間は50分1単位が基本で、月水金（週3）、火木（週2）のセットで行われています。1年間で、古代ローマ、文法、言語学、英作文などのクラスを受講しましたが、英作文の授業は気に入って、前期後期続けて受講しました。このクラスでは、クラスの外でボランティアなどに参加し、活動の意義や問題点などの考察をまとめました。前期はホームレスシェルターで子どもと遊ぶボランティア、後期はドメスティックバイオレンスの被害者を支援する学生活動に参加しました。ただ授業を受けるだけでは学べないことをたくさん学ぶことができました。どの授業も予習復習をきちっとしているのが前提で、毎回課題が出されるので、授業以外の時間は課題に追われ

ていました。テキストや授業の内容で質問があるときには、先生のオフィスアワーに質問に行っていました。文法、言語学の先生のオフィスには、ほぼ毎週2回通って行きました。質問だらけだったんですね。



また、ECU では日本語の授業があり、授業を取って日本語を練習したいアメリカ人学生もかなりいます。私が ECU について早々、日本語クラスの先生と会う機会があり、その時日本語会話クラブを開いてくれないかというオファーを受けました。会話クラブを通して、さらにたくさんアメリカ人と知り合いになりました。日本人は5~6人とそんなに多くなくみんな学部もバラバラで頻繁に会うことはないと思いますが、食事会やイベントの紹介等で連絡を取り合っていました。勉強以外のイベントも盛んです。主に International House や地元の教会主催で各種パーティー、郊外のフェスティバル（seafood festival, state fair 等）イベントの企画があり、アメリカ人学生・留学生との交流を深めることができます。

アメリカ、スウェーデン、中国、韓国、コスタリカ。いろんな国の友達ができましたが、アメリカ留学で一番の仲良しになったのはなぜかカナダ人の女の子でした。留学では学問以外の学びも大きいです。楽しいことばかりではないかもしれませんが、留学をしてみなければ味わえないすばらしい経験がたくさんできます。ぜひ、鳴門教育大学の留学制度を利用して、留学してみてください。

（教科・領域教育専攻 言語系コース（英語）2年）

協定校 イーストカロライナ大学（ノースカロライナ州グリーンビル）

2006年に西日本3大学コンソーシアム（大阪教育大学、広島大学教育学部、鳴門教育大学）とノースカロライナ州3大学コンソーシアム（ノースカロライナ大学ウィルミントン校、イーストカロライナ大学、ウェスタンカロライナ大学）とで交流協定を締結しました。筆者は本学からイーストカロライナ大学への2人目の交流学生です。その他、ノースカロライナ大学に2人、ウェスタンカロライナ大学に2人が留学しました。

7月に留学希望者を募集します。アメリカへの留学希望者はTOEFL (iBT) 60点以上をめざしてください。

国際交流



交流学生による大学紹介 - 中国 青島大学 -

- ◆ 特別聴講学生 ^{ヨウ}楊 ^{ハン}帆 (中国)
- ◆ 特別聴講学生 ^{リュウ}龍 ^{リン}霖 (中国)

私たちは中国の青島大学からの交流学生です。皆さんは中国に行ったことがありますか？中国の大学についてどんなことを知っていますか？これから、私たちはみなさんに青島大学を紹介しましょう！

青島大学は中国の東側の海沿いの街である青島にある大学です。南側は黄海に面して、その後ろにそびえる山々とのコントラストは非常にきれいです。青島大学は理学、医学、経済学、教育学など23学部を擁する総合大学で、校訓は「博学篤志、明德求真、守正出奇」です。在校生は32,300人で、教職員は2,300人です。学校には学生組織をはじめとして、芸術団、放送局、記者団、青年ボランティア会とさまざまなクラブがあります。

学生生活と一番関係が深いのは食堂と学生宿舎だと思います。青島大学の食堂は仁園食堂、滢園食堂、泓園食堂、文化名人食堂と师范学院食堂の五つになります。どの食堂も自分の特徴を持っています。たとえば、滢園食堂の軽食は有名で、仁園食堂の種類は多いです。それから「学苑商場」というスーパーで食事をする学生もたくさんいます。青島大学の学生の中で、もう一つ人気があるのは「青大一路」というところです。ここは毎日屋台がいっぱいあり、レストランもたくさん並んで、おいしくて安いから、学生には大歓迎です。そして、「青大一路」や学校の前門は、夕方になったら、夜食や果物やアクセサリや服などの物を売っている安い露店があり、とてもにぎ

やかです。私もキャンパスで露台を出して、帽子やバックや葉書などのものを売ったことがあります。すごく疲れて、でも、楽しかったです。

学生宿舎は一年生が6人の部屋に住みます。二年生から四年生まで、大体各部屋8人になります。寮の各階にトイレと洗面室があるので便利です。それに8人一緒に住むのは毎日勉強とか生活とかいろいろ交流ができます。みんな家族のように過ごして、大学生活が楽しくなります。

それから、青島大学は入浴が印象深いです。日本と違うのは、学生数が多いから入浴する時はいつでも混んでいます。一つ面白いことは、自分が入浴をしている時、ほかの人は隣で待っている場合もあります。私たちは一年生の時、これがすごく恥ずかしかった。しかし、今は慣れました。よく待っている人と話ができて楽しいです。

もし、青島大学の学生に「よく使ってる交通手段は何？」と聞いたら、最も答えが多いのは「バス」のはずです。車を持っている学生は少なく、青島は坂が多いから、自転車やバイクを運転しにくい。「321号バス」は青島大学の学生がよく乗っているバスなので、「321」という数字は私たちの心に特別な意味を持っています。

青島大学はおもしろいことがまだたくさんあります。もしみなさんが青島に来たら、ぜひ青島大学に来て、私たちの大学生活を体験してください！



右から3番目が楊さん（日本語学科学生による演劇コンクール「雪女」の侍女役）



最前列が龍さん（新入生歓迎会でクラスメートと合唱）

協定校 青島大学（山東省青島）

2000年に国際学術交流協定、2004年に学生交流実施細目を締結しました。毎年2人の留学生在本学で学んでいます。筆者達の留学期間は9月までの予定です。青島大学に興味を持ったら学生課国際交流チームへ！



オーストラリアでの10ヶ月を通じて

◆ 学校教育学部 加藤 将

私が、オーストラリアで何を経験し、何を感じたかなどを少し簡単に紹介します。少しでも、みなさんが海外に出てみたいと思うきっかけになればと思います。

私は昨年3月から、南オーストラリア州のバロッサ・バレーにあるフェイス・ルーテル高校で、日本語教師アシスタントをしてきました。8年生～12年生（中学2年～高校3年にあたる）の生徒が通う学校です。日本語を学んでいる多くの生徒が『日本』にすごく興味を持って授業に参加しているので、それが自分にとって本当にうれしいことでした。生徒はわからないことがあると、積極的に先生に質問します。英語で日本語のことを伝えたり説明したりすることは、最初はとても難しく感じましたが、そういったことを通して生徒との距離がだんだん近づいていったのだらうと思います。



また、日本語の先生以外の先生方にも、日本のことを尋ねられることもたくさんありました。東日本大震災の話や日本の食べ物、自動車、お酒のことなども聞かれたことがあります。英語の中にこんなにも日本語が浸透しているとは思ってもいなかったもので、それがとても誇らしいことでした。10ヶ月を通して、様々な人に『日本』について話し、自分の日本に対する見方がかなり変わったと思います。日本には、代々伝わっている独自の文化、日本語、歴史、自然などなどがあり、いかに美しい国に自分が住んでいたかということを感じました。しかし、オーストラリアにも、数えきれないほど素晴らしいものがあります。ここでは学校に注目しますが、オーストラリアの学校と日本の学校の違いには驚きました。

まず、ほぼすべての教室にコンピュータが6、7台あること。ほかにも、コンピュータールームや、ノートパソコンの貸し出しもあり、プロジェクターがどの教室にも取り付けられていました。そして、その年の8年生から、iPadを授業で活用していく取り組みがなされていました。リサーチをしたり、生徒が自分で提出用、発表用資料を作ったりすることが中心のオーストラリア教育の一つの特徴だと感じました。

ホストファミリーとの思い出は、本当に掛け替えのないものになりました。いくら感謝してもしきれないほど、お世話になったと思います。私は、10ヶ月の間に、二つの家庭でお世話になりましたが、本当に最高の家族に出会えたと思っています。みんなで話しながら夕食を食べ、テレビやDVDを観たり、バロッサ・バレーが世界的にも有名なワインの産地ということもあり、ほぼ毎日のように、ホストマザーやファザーたちとワインを飲みながら話をしたりすることが、とても楽しいひとときでした。今思い出すだけで、涙が溢れてきます。オーストラリアと日本の距離は遠いですが、そこで築いた関係を壊すことなく、一生をかけて交流し続けていこうと思います。

私がオーストラリアでの生活を通して一つ感じたことは、多くの人に海外に飛び出して欲しいということです。目的は漠然としていてもいいと思います。日本を出て生活すると、行って初めてわかること、知ることが山ほどあります。そして、『日本』が見えてきます。海外留学と聞くと、語学力が頭をよぎるかと思いますが、そこにはそんなものよりもっともっと大切な『人々との出会い・交流』があります。現地の人との出会いや交流が自分を成長させてくれたと感じています。彼らのおかげで、私は毎日いろいろな刺激を受けて生活し、最高に充実した10ヶ月を過ごすことができました。皆さんも一歩、海外に足を踏み出してみてはどうでしょうか。

〈小学校教育専修 英語科教育コース 4年〉

言語コース（英語）が毎年実施している Faith Secondary School への日本語 TA 派遣制度でオーストラリアへ派遣



教育に恩返し — 日本産業技術教育学会優秀研究発表賞 受賞感想 —

◆ 学校教育研究科 ^{チェン} 鎮 ^ゲ 革 (中国)

この度、日本産業技術教育学会第54回全国大会で優秀研究発表賞をいただき、誠に光栄に存じます。今まで暖かくご指導をくださった菊地章先生、並びにいつも私に学習と研究の素晴らしい環境を提供してくださった鳴門教育大学と日本産業技術教育学会に心より御礼申し上げます。

今回、受賞対象となった「中学校情報技術教育を意図したグラフィカルプログラミング環境」は菊地先生のご指導で始まったPICマイコンのためのグラフィックスのプログラミング環境「PIC-GPE」の研究と開発です。2011年4月から、菊地先生に助言をもらいながら、ソフトウェアとハードウェアを設計して構築しています。この20000行以上のプログラムで作った環境で、ユーザーはフローチャートを描くだけでPICマイコンのプログラムを作れます。現在はこのプログラミング環境を改善するための新しい機能としてこの環境用のPICの動く状態をコンピュータで表示と分析ができるようにPIC計測モジュールを作っています。今後、このプログラミング環境が中学校の授業で使えることを目指します。将来も、教育環境・システムの開発と改善のために、自分の微力を捧げたいと思っています。

人間は教育されなければならない唯一の被造物です。優秀ではないエンジニアとしての造物主は人間を造物する時、ファームウェアを開発しなかったため、人間は生まれながらにして知っているのではなくて学んで知ようになる被造物になってしまいました。人間全てが、生きている限り学び続けています。しかし、理論知識の多くは抽象的で分かりにくく、また教えにくいのです。そこで、より便利な教育環境・システムや、

より分かりやすい具体的な教材があれば、教育もより進めやすくなるのではないかと思いました。中国の十数年間の教育でニュービー（コンピュータ初心者）から情報工学部の学生になった私は、教育に恩返ししようという気持ちを持って、教育の第一札所の日本の鳴門教育大学に来て、この十数年で習得した知識を利用して学校の教育環境・システムの開発・改善に励んできました。日本にいる2年間に、指導教員の菊地先生のご恩情で、学会参加、論文発表、会社訪問、学校訪問、新しい研究分野への試みなど、様々な形で自分に挑戦しました。先生方は、蠟燭のように自分の命を燃やして私たちの道を照らし、灯台のように一生そびえ立って私たちの進むべき方向を指し示してくださっています。またグローバル変数のように生徒の一生に影響し、ウィーナフィルタのように学生を完璧にしています。「ありがとう」と一言では先生方に自分の感謝の気持ちを表しきれませんか？皆さんも、自分の行動で、習得した知識で、教育に恩返しをしましょう！



〈教科・領域教育専攻 生活・健康系コース（技術・工業・情報）1年〉

学外研修に行ってきました



熱田神宮（11月10日）



大塚製薬板野工場（12月19日）

課外活動 サークル紹介

弓道部の奇妙な冒険

◆ 弓道部 庄野雄介

私たち弓道部には最高に「ハイ！」ってやつらが集まっています。現役の中では経験者はたった1人だけ。それなのにみんな中てます、ことある大会でいい結果も残してます。練習内容は走ったりしません、筋トレなんかしません。そんな疲れることは一切しません無駄無駄無駄無駄無駄アーツ!!

そんな弓道部にも危惧すべき事実が一つだけあります。昨年の新入部員数はたったの2人。このままだと試合に出られない可能性すらあります。この状況を打破するヒントをつかもうと私はこの2人にインタビューしました。

Q.「なんで弓道部に入ってくれたの？」

A.「だって弓道って格好いいじゃないですか」

Q.「どうしてみんなもっと入らないの？」

A.「謎ですよ・・・こんな部活他にはないのに」

Q.「ブラボー!おお・・・ブラボー!!」

A.「弓道部最高 WRYYYYYYーッ!!!!」

何もつかめませんでした。でも2人には感謝しています。私たちは一人一人の個性を大切にします。もっと入ればよからうなのだアアアアアッ!!

兎に角弓道部は楽しいです。練習外でも部員同士の仲が良く、よくカラオケとかいきますドライブとかします缶蹴りとか遊戯王とかもします。

最後に一言、「鳴教生!きさま!見ているなッ!」

〈小学校教育専修 技術科教育コース 2年〉



合唱団 Tadpole

タドポール

◆ 合唱団 'tadpole' 徳井貴彬

みなさんこんにちは!僕たち Tadpole は合唱団として入学式での学歌斉唱, 鳴門市の第九, 大学祭, ボランティア, 定期演奏会の開催などを目的として活動しています。

団員は学部生, 院生問わず在籍しており, 学科も様々なところから集まっています。初心者も何人もいますが, みんな楽しく歌って合唱をしています。

普段歌っている曲は, 中学校の合唱で歌われている曲やポップスを中心に, 団員の希望する曲を

聞いたりして選曲しています。

みんな仲がよく, 個性のある部活動です!ぜひ僕たちと一緒に合唱を試してみませんか?初心者から経験者まで大歓迎です!



〈中学校教育専修 音楽科教育コース 2年〉

課外活動 サークル紹介

茶道の世界へようこそ！

私たち茶道同好会「一期一会」は、2011年1月に発足してから、はや2年が経ちました。私たちは、月3回水曜日の5限目に大学会館3階の和室で活動しています。みんな茶道は初心者で、はじめの頃は作法や所作が難しくて失敗ばかりしていました。しかし、先生のご指導のもと、はじめはお盆^{ぼんだて}が精一杯だったのが、今では釜でお手前が出来るようになりました。

また、普段の活動だけではなく、毎年11月の大学祭でお茶会を開いたり、鳴門教育大学にいられた外国人研修員の方々にお茶会を開き、日本の



◆ 茶道同好会「一期一会」 天川 康博

文化を体験してもらう活動などもしています。他にも、徳島県内のお茶会に年数回ほど参加したり、茶道文化検定に挑戦したりしています。

部員は学部生・大学院生の他に、韓国や台湾などの留学生の方もたくさんいて、茶道だけではなく様々な国の話を聞くことが出来たり、文化にふれたりすることができます。皆さんも、日本の文化や世界の様々な文化にふれ、将来教員として持つておくべき教養を高めていきませんか？兼部でも初心者でも大丈夫です。一度、見学しに来てみて下さい。皆さんの入部をお待ちしています！



〈小学校教育専修 理科教育コース 3年〉

おいでよ理科サークル

私たち理科サークルは毎週木曜日の18時半から、21名で活動しています。楽しみながら理科の知識や指導力を身につけることを目的としています。昨年度は金環日食を観察したり、校内の畑で野菜を作ったり、化石の発掘に行きました。活動のメインは夏に行う実験教室です。鳴門教育大学に小学生を招き、私たちが先生となって実験を教えます。昨年度は太陽光電池を作る実験を行ったのですが、こどもたちや保護者の方々のウケも良く大成功でした。

理科の教員志望でなくとも小学校の教師であれば、こどもたちに実験を教える必要があります。大学のカリキュラムでは実際に子どもに実験を教える機会は少ないので非常にいい経験となるはず

◆ 理科サークル 清原 光央

です。学部、院を問わず部員募集中ですので是非一度遊びに来てください。



〈教科・領域教育専攻 自然系コース（理科） 1年〉

幼稚園 附属幼稚園での保育者修業

私は、昨年鳴門教育大学を卒業し、現在、附属幼稚園で3歳児の担任をさせて頂いています。附属幼稚園での実習で、真に子どものための保育を追求する先生方の真摯な姿に出会った時から、私も附属幼稚園の先生方のような保育者になりたいと強く思ってきました。大学を卒業するにあたって、附属幼稚園で勤務するチャンスを頂いたとき、保育者としての基礎を附属幼稚園で培えることに大きな幸せを感じました。ここでの修行の機会を頂いたからには、先生方から、そして子どもたちから、日々一つでも多くの学びを得なければと考えています。しかし、それ以前に、保育に携わる者として、自分の弱さや甘さに向き合い、人間としての修養を重ねる過程には、厳しいものがあり、日々自分自身との戦いです。毎日は、あっという間で、担任している子どもたちを次の学年へと送

◆ 附属幼稚園 教諭 安原 陽香

り出すまであと2ヶ月足らずとなりました。また、私自身、来年度からは、公立の幼稚園で保育者として独り立ちしていかなければなりません。子どもたちの貴重な時間とともにできる残りわずかな日々を一日一日大切に、そして目の前に控えている表現会で子どもたちが自信いっぱい輝けるように尽力したいと思っています。



小学校 体力アップ

附属小学校と言えば、学力が高く体力はそれほどでもないというイメージをもちがちですが、そうではありません。ここ数年の全国運動能力・運動習慣等調査では、男女共に全国平均なみという結果が出ています。この結果を受け、本年度は、子どもの体力づくりに力を入れています。

例年実施している三種競技（50m走・ボール投げ・懸垂維持）の測定や中学年対象の水泳教室のほかに、夏休みの陸上教室や体育委員会による朝のかけっこ教室、生活部による1日の歩数調査など、様々な取り組みを行っています。写真は、第5学年の「体力アップ作戦」（総合）で、城山登りをしている様子です。1年生の頃から親しんできた城山を登ることで体力づくりをするとともに、新年の誓いを山頂から附属小学校に向けて叫んできました。

◆ 附属小学校 教諭 月本 直樹

現在は、徳島市民クロスカントリー大会への出場に向けて練習に取り組んでいます。文武両道。知・徳・体のバランスのとれた子どもたちが、いきいきと育っています。



中 学 校 **がんばっています！吹奏楽部**

◆ 附属中学校 教諭 **武 田 有加里**

1月19日、鳴門市文化会館で開催された「徳島県アンサンブルコンテスト」に、吹奏楽部金管8重奏チームが出場しました。結果は残念ながら銅賞に終わってしまいましたが、賞以上に多くのことを学んだ一日になりました。

この日は、予選で敗退した部員30名も、応援に駆けつけました。他校の気迫溢れる演奏を目前にし、自分たちの未熟さを痛感する一方で、「何か今無性にクラリネットが吹きたい！」と声を上げる部員もあり、音楽への探究心も揺さぶられている様子でした。午後は、運動公園で、昼食と兼ねて体力づくりもしました。こうした普段とは違う特別な時間も、親睦を深めるよい機会となり、部員の結束力もいっそう高まったようです。

まだまだ結果に結びつく所まで至っていません

が、演奏面・運営面共に、部員一人一人がその役割を果たすことを念頭に、日々充実した活動を行っています。こうした活動を通して、子どもたちが仲間と共に音楽を作り上げる喜びを味わい、将来に生きる力を育てていってほしいと願っています。



特別支援学校 **わくわくした第1回学校祭**

◆ 附属特別支援学校 校長 **加 藤 浩**

「絆BEAT つばさをひろげて、がんばろう」をテーマに12月9日(日)に第1回学校祭が開催されました。オープニングのセレモニーでは、本年も交流を深めている附属小学校コーラス部が美しい歌声を3曲披露してくれました。

セレモニー終了後、小学部から順に、各部30分までの持ち時間で、一杯日ごろの学習の成果を発表しました。ダンスや歌声・体操などとても感

動的な学習発表となりました。そして学習発表を終えた学部ごとに、催し・即売を行いました。

お昼ごろには、ロンドンパラリンピック金メダリストの正木健人さんの握手コーナーもあり今回の学校祭を盛り上げていただきました。第1回学校祭は、本当にわくわくドキドキしたものとなりました。



<附属小学校のコーラス>



<正木健人さんとの握手会>

図書館だより

①卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証（運転免許証、保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行いたします。

◎非来館での利用

利用者から申し込みのあった図書について郵送等により貸出を行っています。なお、送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>) の「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。か、電話でお問い合わせください。

(TEL 088 - 687 - 6156)

* 来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のようになっています。

貸出冊数	貸出期間
5冊以内	1か月以内

※卒業・修了生へは雑誌の貸出はできません。

②教科書コーナーの教師用指導書の貸出中止について

図書館では、これまで、一般図書と同様に教師用指導書の貸出を行ってきましたが、「必要な指導書がいつも貸出中で利用できない」という声が多く寄せられていました。

そこで、より多くの方に利用していただくため、平成25年4月以降は教師用指導書の貸出を原則として行わないこととします。これからは図書館内での閲覧とコピーでご利用ください。

なお、3月中に順次変更作業を行いますので、ご了承ください。

③マイライブラリの利用について

「マイライブラリ」は、インターネット上で、図書館からの連絡事項や利用者自身の貸出状況の確認、学外機関からの文献取寄せの申し込み等ができるサービスです。大変便利なサービスですので、ぜひご利用ください。

なお、「マイライブラリ」が利用できるのは学内に限定されています。

◎アクセス方法

図書館ウェブページの「マイライブラリ」をクリックするとログイン画面が表示されますので、「利用者ID」、「パスワード」を入力してください。

※利用者ID、パスワード

学生・情報基盤センターのパソコンにログインする際のユーザーID、パスワード。
教職員・メールを利用する際のユーザーID、パスワード。

④各種ガイダンスについて

図書館では、学内の方を対象に下記の期間に文献検索や、雑誌論文などの収集を手助けする各種ガイダンスを実施しています。

詳しい日時が決まりましたら、図書館掲示板、図書館ウェブページなどでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

4月/新入生のための図書館オリエンテーション
春～秋頃/文献検索講習会
(大学院学生、学部学生、教員対象)

⑤レファレンスサービスについて

図書館では、図書館利用や資料・事柄等に関するいろいろな質問を受け付けています。わからないことがありましたら、カウンター職員にご相談ください。即答が難しいものは、後日、回答いたします。

高齢出産と少子化の問題

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



わが国では、現在、未婚者率の増加、晩婚化と高齢出産、少子化および子どもの低体重化が注目されています。いずれも2010年のデータですが、生涯未婚者率は男性が20%、女性が10%に達しています。平均初婚年齢は夫30.4歳、妻28.6歳で、1975年における初婚年齢に比べて、男性で3歳程度、女性では5歳程度遅くなっています。この晩婚化の影響を受けて、初産年齢も高くなっています。

高齢出産とは、女性が35歳以上で子どもを産むことをいいます。これには卵子の老化による不妊症のリスクとダウン症候群などの染色体異常児が生まれる確率が高くなるという問題があります。従来、男性側の高齢化はあまり問題視されてきませんでした。最近、40歳以上の高齢の父親のリスクとして、子どもの知能指数（IQ）が低く、自閉症や統合失調症などの精神保健疾患になりやすいことが分かってきました。

合計特殊出生率（ひとりの女性が生涯に産む子どもの数）は戦前と太平洋戦争直後を通じて4人を下回りませんでした。しかし、未婚者率の上昇と晩婚化による出産の高齢化の影響で、2010年には出生率が1.39で出生数は107万1306人に減少しました。特に、20歳代前半の出産はこの20年間で半数以下に激減し、30歳代での出産が増えるなど、高齢出産と少子化は、わが国の社会と経済に大きい影響を与える問題となっています。わが国が今の人口を維持するためには、合計特殊出生率の値として2.08~2.1程度が必要なことから、今の状態が続くと250年から300年後には日本列島から日本人が消滅するという予測もあります。

一方、低出生体重児（生下時体重<2500g）の出生数は減少傾向を示していないので、低出生体重児の出生率は相対的に増加しています。厚労省

の2010年乳幼児身体発育調査の最新結果によると、男児と女児の平均生下時体重はそれぞれ2980gと2910gで、最も体重が重かった1980年と比べると、男女とも250g減少しています。低出生体重児は生活習慣病になりやすい傾向があります。新生児の低体重化に関して、厚労省は細身の女性が増えたことが原因とみているようですが、産科医師の「小さく産んで大きく育てる」指導が関係しているかもしれません。

どの国も社会・経済が発展すると晩婚、出産の高齢化が進み、出生率は下がるのですが、発展がある段階を超えると、出生率は再び増加に転じる傾向になります。しかし、わが国は出生率が上がらない例外的存在であり、しかも、長期間、新生児の体重が減り続けている国は、先進国としては珍しいといわれています。

子育てに関して、早産のため低体重で生まれた赤ちゃんは、24時間、同じ明るさで育てるより人工的に昼夜を作って育てた方が、体重が増えやすいことがわかってきました。外でよく遊び、早く就寝する子どもは、自分に価値があると感じる「自尊感情」が高い傾向にあるようです。また、自然と接する機会の多かった人は結婚する率が高く、生む子どもの数も多いようです。逆に、夜10時以降に寝る幼児は、発達の面で問題を生じる傾向があるようです。海外の研究で、犬が飼われている家庭で育つ赤ちゃんは、感染症や呼吸器疾患にかかるリスクが減ることが分かりました。毎日ある程度の時間を屋外で過ごす犬が周りにいることで、乳児の免疫力が高まる可能性が考えられるのだそうです。子どもの健全な発育と発達に必要な環境と因子が浮かび上がってくるように思われます。

東日本大震災・被災地支援活動参加報告

◆ 学校教育研究科 水島 誠 治

東日本大震災被災地支援活動に参加しました。今回で3回目の被災地ボランティアとなりました。今回は、前回お世話になった、“不良ボランティアを集める会 まごころ便”に参加、岩手県釜石市の仮設住宅にて炊き出しを行いました。前回の活動は、瓦礫の撤去作業でしたが、今回は仮設住宅での炊き出しということで、現地の人たちとの交流がメインとなりました。被災者の方々の生の被災体験を聞くことができ、大変貴重な経験ができました。今回は、昨年11月に行われた鳴門教育大学学園祭で行った“東日本大震災ボランティア写真展”を通じて5名もの本学学生が私と一緒に参加してくれました。

わずか1年たらずで被災地は大きく変わりました。前回の訪問では(2011年11月)、瓦礫が道路脇に山のように積まれていたのが、今回の訪問ではきれいさっぱりなくなっていました。しかし、そこには手つかずの廃墟だけがポツンと残されていました。なにもない、なにも残っていない寂しい風景でした。

今回の目的は、現地の仮設住宅を訪問し、炊き出しをすることでした。仮設住宅には、小さな子どもからお年寄りまで、いろいろな人たちが住んでおり、現地の人たちとの交流を通じて、本当に貴重な体験をすることができました。実際の被災体験を聞ける機会があり、「津波は黒い壁が押し寄せ

て来るようだった。この感覚は被災した人でないと分からない。」という話を涙ながらに語って下さいました。

最後に、一番印象に残ったことばをひとつ。仮設で暮らす子どもたちの保護者の方のことばです。「震災が起きても、この子どもたちは必死に元気で生きようとしている。子どもたちの笑顔が私たちのエネルギーです。そのことを多くの人に人たちに伝えてほしい。」ボランティアの私たちにできることは、被災地での体験をより多くの人たちに伝えることだと思います。被災地に赴くだけが支援ではない。被災地に行かなくてもできる支援はたくさんあると思います。その第一歩が、まずは自分の生活をもう一度見直すこと、当たり前と思って過ごしている自分たちの生活をもう一度見直すことだと思います。



この子どもたちの笑顔がたくさんの人たちを笑顔にしますように...

〈人間教育専攻 幼年発達支援コース 2年〉

活動期間：2012年11月23日(金)～11月26日(月)

参加団体：不良ボランティアを集める会

“がんばろう西日本!復興キャラバン
～ボランティアバスまごころ便34便～”

活動場所：岩手県釜石市鶴住居仮設住宅

活動内容：・釜石市鶴住居町仮設にて炊き出し
(鳴門金時を使った焼き芋、豚汁、現地の
食材を使った料理など)

- ・被災時の状況についてのお話を聞く
- ・釜石、大船渡、陸前高田、大槌町被災地見学
- ・福島県にて放射能と戦う有機農業の実態見学、農作業のお手伝い





一年間を振り返って。

◆ 学生会会長 矢出 佳菜絵

ご卒業生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

2012年、ロンドンオリンピックが開催される中、同じように就職・進学にむけて闘っていた先輩方が目に浮かびます。

学生会では例年どおりの夏の納涼かき氷大会、クリスマスイルミネーション、ココアデーなどの活動に加え、徳島のサッカーチーム“ヴォルティス”の集客UPのイベントなどに参加しました。

私たちはこういった活動を通じて多くの人と関わり、様々な方面からの支援のおかげで学生生活を送れているのだと感じました。また来年度も様々なイベントを開催予定ですので楽しんでいただければ幸いです。

現在（1月）は一年の締めくくりとなる私たち学生会にとっても最も気合いを入れて取り組む「卒業記念パーティー」の準備を行っています。先輩方の思い出のひとつとなるよう努めさせていただきます。

2012年の漢字は『金』でした。金環日食、ノーベル賞受賞の金字塔、そしてロンドンオリンピックでのメダルラッシュ。先輩方の未来が『金メダル』級のすばらしいものとなりますよう、お祈り申し上げます。

ありがとうございました。



1年終えて。

◆ 院生会会長 村井 庸 佑

こんにちは、村井です。ついこの間までマフラーや手袋が手放せないほど寒かったのが嘘のように、だんだん春の足音が近づいて参りました。また、先輩方におかれましては、ご卒業の折かと存じ上げますが、くれぐれもお体にはお気を付けてください。新天地での皆様方のますますの御活躍、御発展をお祈りしております。さて、ここで私事ではありますが、院生会の1年を振り返っての簡単な感想と反省を述べたいと思います。

大学院に進学してまもなく今の会長という役職に就かせて頂き、右も左もわからないままに、院生会活動をこなして参りました。バレーのときは「たかだかバレーボールするくらいで……。」と考えていましたが、1人の力ではどうにもならないことばかりでした。これは驚きでした。1人でできることの限界を知りました。しかし、そんなと

きいつも決まって院生会のメンバーに助けを求めていました。そうすると不思議と物事がすすいと進みました。前回の掲載と同じになってしまうのですが、この歳になって協力することの大切さを痛感いたしました。そういった意味で非常に有意義な1年だったと言えます。来年度はこの経験を活かしてより良い年にしたいです。



課外活動 News[★]

クリスマスイルミネーション

◆ 学生会 山野実保

今年度学生会ではクリスマスシーズンを盛り上げるため、図書館前を中心にイルミネーションの設置を行いました。昨年度は電飾の数が少なく、とてもさみしいものでした。そこで本年度は思い切って電飾の数を倍に増やし、華やかな演出を試みました。垣根だけでなく、中央の大きな木をメインに飾ったのがポイントです。赤や黄色、青、白といったカラフルな電飾……いつもとはちょっと違った鳴教をお楽しみいただけましたでしょうか？少しでもクリスマスモードに浸っていただ

けたなら幸いです。来年度は他サークルを交えた点灯式を行うなど、更にバージョンアップしたクリスマスイルミネーションをご期待ください！

このように学生会は、皆さんの学生生活がよりよいものとなるよう日々活動しております。

「もっとこんなことをしてほしい！」「あんなこともしてみてもいい？」といったご意見ご要望がございましたら、学生会役員または本部棟学生会ポストまでお寄せください。



ALBUM

Naruto University of Education



大学事務職員の仕事 (第1回 学生課)

これから数回に分けて事務のお仕事を紹介していきます。第1回目は「学生課」です！
学生課は、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう、健康・福利から課外活動に至るまで、多方面にわたって、皆さんの日常生活を支援しています。

こんな時は学生課へ！！

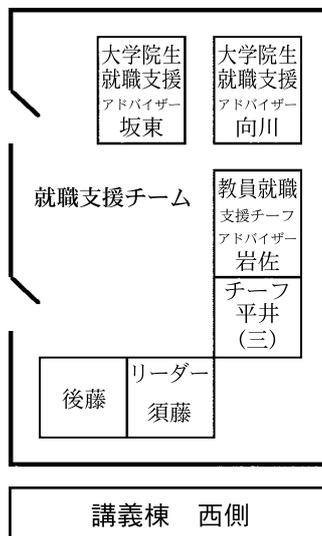
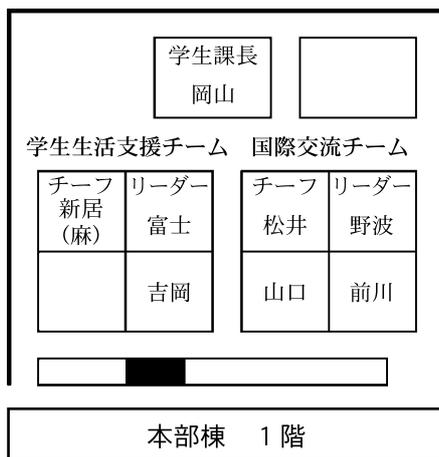
- 「落とし物をした／拾った」, 「事故・事件にあった」
- 「海外へ渡航します」, 「留学したい」,
- 「何か行事をしたい」, 「サークル活動したい」,
- 「ボランティア活動(災害関係)に行きます」
- 「就職・進路について相談したい」, 「就職関係の資料が閲覧したい」
- 「授業料免除について相談したい」, 「奨学金について相談したい」
- 「掲示板にビラ・ポスターを貼りたい」, 「貸出物品を借りたい」
- 「正課・課外活動中及び通学中のけがで通院・入院した」
- 「体育施設を利用したい」, 「学生会館3階の集会室を利用したい」
- ・・・などなど

学生生活をする上で、気になる事やお困りの事があれば、お気軽に足を運んでください。お待ちしております！

主な仕事内容

- 【学生生活支援チーム】** 学生支援／学生相談／課外活動／奨学金／入学料・授業料免除／学割 など
- 【就職支援チーム】** 就職・進路に関すること／ボランティア活動 など
- 【国際交流チーム】** 留学と留学生に関すること など

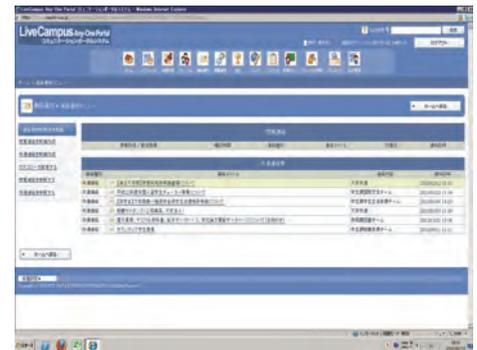
学生課スタッフ配置図



窓口事務取扱時間

平日:8:30~18:30

但し、休業期間中および学校行事開催日
8:30~17:15



Live Campus



就職用掲示板



学生用掲示板



学生課(本部棟一階)

学生課からのお願い

学生課からのお知らせは・・・

「中央掲示板」及び「Live Campus」で確認！！

就職情報は・・・

就職支援室横の掲示板で確認！！

窓口時間外の鍵(課外活動施設)の返却・・・

本部棟1階玄関の「守衛室」へ！！



- 自転車は、車道が原則、歩道は例外、車道は左側を通行
- 許可された歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 安全ルールを守る
 - ・飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - ・夜間はライトを点灯
 - ・交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
 - ・子どもはヘルメットを着用

(5)盗難防止について

駐車・駐輪の際は、短時間であっても必ず施錠する。長期間放置しない。

(6)交通規則の遵守について

駐車違反、ノーヘルメット、速度違反、一時停止違反、飲酒運転等、学内及び近辺だから大丈夫というものではありません。

取り返しのつかない事故を起こさないためにも、常日頃から交通規則及び構内交通ルールの遵守を心がけ、無謀な運転はしないよう心掛けてください。

交通事故を起こした場合は、速やかに学生課学生生活支援チームに報告してください。

マルチ商法について

ネズミ講に似た商法で、会員を増やすことにより商品の販売組織を拡大し、報酬を得る商法です。

商品を販売する会員を子会員、孫会員と次々に拡大していくことが、親会員の報酬を増やすこととなり、商品販売より会員拡大が第一目的になり社会問題になることが多く、ネットワーク・ビジネスともいわれます。

- ・“簡単に儲かる”甘い言葉には騙されないよう、くれぐれも注意しましょう！！
- ・声をかけてくる人が、あなたの先輩、後輩や友人であっても、話をうのみにせず、今一度考えてみましょう。また、あなたが友人を勧誘した場合、加害者となり、犯罪となる可能性もあります。
- ・「悪質なマルチ商法の被害に遭った。」「被害に遭っているかもしれない。」「関係したかもしれない。」と思った方は、[徳島県消費者情報センター\(※1\)](#)に相談してください。
- ・キャンパス内での営利活動や学外団体等による勧誘・宣伝活動は認めていません。勧誘・宣伝・アンケート等の活動を見かけたら、ただちに学生課学生生活支援チームへ連絡してください。

☆以下のようなマルチ商法以外の悪徳商法もありますので、ご注意ください！！

- ①資格講座商法 ②内職・モニター商法 ③キャッチセールス ④送り付け商法
- ⑤アポイントメントセールス ⑥デート商法(恋人商法) ⑦点検商法
- ⑧次々販売商法 ⑨現物まがい商法 ⑩S F(催眠)商法

(※1)徳島消費者情報センター 【電話:088-623-0110 FAX:088-623-0174】
 相談時間:平日(水曜日を除く)9:00~18:00,土曜日・日曜日9:00~16:00
 【休所日:水曜日・祝日・年末年始】

学生表彰について

本学には、課外活動等において、優秀な成績を修め、かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

平成24年度における表彰が決定した方々は、次の皆さんです。

	氏名(団体名)	所属(学年)	表彰事由
前期	伊藤 希望	院 現代教育課題総合コース 2年	第60回四国陸上競技選手権大会 兼 第54回四国四県対抗陸上競技大会 女子走り幅跳び 第1位 第66回中国四国学生陸上競技対校選手権大会 女子走り幅跳び 第1位 徳島陸上競技カーニバル 女子走り幅跳び 第1位 第63回四国地区大学総合体育大会 陸上競技 女子100m走 第1位 女子200m走 第2位 女子走り幅跳び 第2位 女子400mリレー 第2位
	鎮 革	院 生活・健康系コース (技術・工業・情報) 1年	日本産業技術教育学会第54回全国大会 優秀研究発表賞
後期	小井 恵理	院 言語系コース(国語) 2年	第63回四国地区大学総合体育大会 水泳競技(女子) 200m個人メドレー 第1位
	福良 祐香子	学部 幼児教育専修 4年	第63回四国地区大学総合体育大会 水泳競技(女子) 50mバタフライ 第1位, 100mバタフライ 第2位
	高橋 徹	学部 中学校・技術科教育コース 3年	第63回四国地区大学総合体育大会 弓道 男子個人戦 第1位 第28回全国教育系大学弓道選手権大会 男子個人 第3位
	野方 健司	院 芸術系コース(美術) 2年	第67回徳島県美術展 彫刻部門 奨励賞
	清原 葵	学部 小学校・図画工作科 教育コース 3年	第58回中四国学生弓道選手権大会 準優勝
	西本 浩章	院 生活・健康系コース (保健体育) 1年	第31回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 男子個人戦 優勝
	加藤 弘貴	院 生活・健康系コース (保健体育) 1年	第31回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 男子個人戦 準優勝
	是枝 佑徳	学部 中学校・数学科教育コース 2年	第31回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 男子個人戦 第3位
小西 矩子	学部 中学校・英語科教育コース 2年	第31回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 女子個人戦 準優勝	
	弓道部(男子)		第28回全国教育系大学弓道選手権大会 男子団体 優勝

溝上賞

この溝上賞は、本学の第4代学長、名誉教授であります溝上 泰氏の功績をたたえる顕彰事業として設けられたもので、溝上氏から寄贈された基金によって運営されており、上記の学生表彰被表彰者のうち特に顕著な功績をあげた者の中から一人又は1団体を表彰するものです。

平成24年度の受賞は、次の方に決定しました。

伊藤 希望 (現代教育課題総合コース 2年)

平成24年度徳島県議会表彰

平成25年2月25日(月) 徳島県議会議場にて表彰されました。

鎮 革 (生活・健康系コース(技術・工業・情報) 1年)



行事予定

平成25年度前期

	行 事 等	備 考
前 期	4月1日(月)～4月7日(日) 春期休業	4月23日(火)「履修登録」締切 ※変更期間： 4月24日(水)～4月30日(火) ※7月16日(火),18日(木)は 月曜の授業を実施する。
	4月8日(月) 入学式	
	4月8日(月)～4月9日(火) 新入生オリエンテーション	
	4月9日(火)～4月10日(水) 新入生合宿研修(学部1年)	
	4月11日(木) 授業開始	
	6月11日(火)～6月12日(水) 附属校園観察実習(3年)【附幼・小・中】	
	8月1日(木)～8月7日(水) 前期試験期間	
	8月1日(木)～9月9日(月) 夏期休業(大学院)	
	8月8日(木)～8月23日(金) 夏期休業(学部)	
	8月24日(土)～8月31日(土) 集中講義(学部)	
4 月 1 日 月 ～ 9 月 3 0 日 月	8月26日(月)～9月6日(金) 保育所実習Ⅰ(2年)【鳴門市内保育所等】	期間中の2週間
	8月26日(月)～9月6日(金) 保育所実習Ⅱ(4年)【鳴門市内保育所等】	
	9月2日(月)～9月27日(金) 主免教育実習(3年)(長期履修生)【附幼・小・中, 協力校】	
	9月2日(月)～9月13日(金) 教員インターンシップ(4年)【附幼】	
	9月2日(月)～9月30日(月) 教員インターンシップ(4年)【鳴門市内小中学校】	
	9月3日(火) ふれあい実習(観察実習)【学内】	
	9月9日(月) ふれあい実習(観察実習)【附幼・小・中】	
	9月10日(火)～9月30日(月) 集中講義(大学院)	
	9月10日(火) / 9月11日(火) ふれあい実習(交流実習)【鳴門市内幼稚園】	
	9月17日(火)～9月24日(火) ふれあい実習(交流実習)【附特別支援】	
9月24日(火)～9月25日(水) 2年生合宿研修	どちらか1日 期間中のうち1日	

就職支援行事予定

※詳細は就職支援室で確認すること。

月	日時	行事名等	内 容
4月	10日(水)	教員採用試験対策説明会(学内) 教採対策ガイダンス(実践編)	教員志望学生への指導・助言 (講) 集団面接・模擬授業・個人面接(筆) これまでの教育改革, 各種答申等 I
	11日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
	17日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 各種答申等 II, 学習指導要領
	18日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
	20日(土)	教員採用模擬試験	受験希望者(2回目)
	24日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 特別活動, 健康・安全教育, 食育, 生徒指導
5月	25日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
	8日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育法規
	9日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育法規
	15日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 指導案と学習指導, 学習方法, カリキュラム
	16日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
	22日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 道徳教育, 人権教育, 特別支援教育
	23日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
	25日(土)	教採実技ガイダンス(集団)	模擬集団討論(2回目)
	29日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 総合的な学習, 環境教育, 福祉教育, 国際理解教育, 情報教育, キャリア教育
	30日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
6月	下旬	教採実技ガイダンス(音楽)	音楽実技(弾き歌い:2回実施)
	上旬	教採実技ガイダンス(音楽)	音楽実技(弾き歌い:2回実施)
	5日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教職教養Ⅰ(教育原理・教育心理・教育史), 一般教養
	6日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
	12日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教職教養Ⅱ(教育時事), 時事問題, 一般教養
	13日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	
	19日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 適性検査(YG 性格検査, 内田クレペリン検査)
	20日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(講) 一次審査・二次審査の準備と今後の対策
	22日(土)	教採実技ガイダンス(個人)	模擬授業・個人面接(2回目)
	26日(水)	教採対策ガイダンス(直前編)	神奈川県・川崎市・横浜市対策
27日(木)	教採対策ガイダンス(直前編)	大阪府・大阪市・堺市対策	
7月	上旬	教採実技ガイダンス(美術)	図画実技(鉛筆素描:1回実施)
	3日(水)	教採対策ガイダンス(直前編)	兵庫県・神戸市対策
	4日(木)	教採対策ガイダンス(直前編)	徳島県対策
	上旬	教採実技ガイダンス(美術)	図画実技(鉛筆素描:1回実施)
	上旬～下旬	教採実技ガイダンス(体育)	体育実技(ボール・器械運動:2回実施, 水泳:2回実施)
	中旬	教採二次対策ガイダンス	徳島県・大阪府・兵庫県等対策
下旬～9月上旬	教採二次対策ガイダンス		

編集後記

ご退職される先生方, 本学の発展のためにご尽力いただき, 誠にありがとうございました。また, ご卒業・ご修了される学生の皆さん, おめでとうございます。

教員就職率3年連続全国1位という輝かしいニュースが届きましたが, 皆様の弛まぬ努力があったからこそ成し得たものだと思います。本号をご覧になっていただければ, それぞれの領域で研究・勉学に打ち込まれている皆様の教育に対する情熱と, 充実した学園生活の様子が伝わって参ります。素晴らしい先輩方とこの自然豊かな鳴門の環境は, 本学の大切な財産です。ご投稿いただきましたすべての方々に心より感謝し, 御礼申し上げます。(K.K.)

